

令和3年度  
**椿小学校**  
**「学力向上実行プラン」**

(1)知識・技能の習得

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- よくわかる複式授業の実践
- 自主的に取り組むことのできる家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：田上尚、教頭：山下崇、5.6年担任：高松馨太、1.2年担任：瀧本香織、養護教諭：今田香凛、市学校教育支援員：林正雄  
 教頭：山下 崇

校長  
**田上 尚**

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ドリル学習や家庭学習等に真面目に取り組むことができ、該当学年の漢字の読み・書き・計算等において約8割程度の定着がみられる。 ●漢字の読み・書き・計算等において、個人差が大きい学年があり、長期にわたっての定着度が不足している児童もいる。 ●長文の読み取りや工夫して計算する問題に対する理解に時間がかかる。	・基本的な漢字の読み書きや四則計算などの、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ・身につけた知識や技能を、他の学習や生活の場面でも活用することができる。	・朝の活動やチャレンジタイムで漢字・計算等のドリル学習を継続的に行う。 ・個人の実態と課題に応じた授業展開をこころがける。 ・タブレットやPCの教材ソフトなどを活用し、基礎的・基本的な学習に対する興味・関心を高める。	○朝の活動やチャレンジタイムでの漢字・計算テストを継続して実施し、個に応じた学習内容を選ばせ、学習に対する成功体験をさせ、意欲付けをさせる。	①漢字検定と数学検定の合格率は、過去問題集などの結果からは、合格率は8割程度と予想される。 ②配布されたipadを活用して、児童自ら課題に向き合うことが多くなった。	・朝の活動やチャレンジタイム等を活用し、基礎的・基本的な内容のドリル学習を継続して行う。 ・ipadの教材アプリ、デジタル教科書などを活用し、苦手な分野を見つけて、それに対する学習を進んで行えるようにする。 ・個に応じた指導の充実をはかる。 ・読み聞かせや授業に関連する本を紹介してもらうなど、図書館サポーターと連携し、知識や理解を深める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や手順が分かる学習には真面目に取り組むことができる。 ●読解力、表現力が乏しく、考えたことを自分の言葉で話したり、書いたりすることに課題があり、自ら進んで表現することに苦手意識がある児童が多い傾向にある。	・みんなの意見を聞き、授業や行事等で積極的に自分の考えを書いたり、話したりし、他者に伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、児童同士が主体的に対話する場面を増やす。 ・児童の発言や発表の内容に応じて「なぜ」「どうして」などのさらなる発問を行い、考えを深めさせる。 ・人前で話す機会を意図的に企画するようにする。	○学級での活動や集会等で、友達の発表に対して積極的に自分の意見(感想)を述べたり、質問をしたりする様子が見られるようになってきている。	①振り返りアンケートから、ほぼ全員の児童が積極的に自分の考えを書いたり発表できたりしていると感じている。 ②朝会の回数を増やし、意見発表をする機会が増え、それについて質問したり感想を述べたりする児童が増えた。 ③調べたことなどをもとにipadを活用し、プレゼンを行い、考えを述べるこ	・主体的に話し合う活動を積極的に行うために、あたたかい聴き方や話し方の指導を続ける。 ・児童の考えや思いを、教師や他の児童が認める雰囲気づくりにつとめ、のびのびと学ぶことができる空間をつくる。 ・児童相互の学び合いの機会を持てるような授業展開につとめる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組むことができ、出された課題や家庭学習などには、真面目にきちんと取り組むことができている。 ●主体的な取り組みに対して、個人差があり、自分で考えて自主的に学習を進められる児童は少ない。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・家庭学習や苦手な課題についても、自分から積極的に取り組むことができる。	・家庭学習の手引きを作成し、児童・保護者がどのように家庭学習に取り組めばよいのか具体的にわかるようにする。 ・毎週金曜を「自主学習の日」とし、自分に合った分量や内容に取り組むことができるようにする。 ・毎月最終金曜を「家庭読書の日」とし、学校図書を持ち帰らせて、家庭での読書に励むことができるようにする。	○よい取組を教師が紹介したり、相互に見せ合ったりして、ノートまとめ方や自主学習の内容を充実させる。	①児童は「よく読書をしている」と感じているが、保護者は「自分の子どもはよく読書をしている」とは感じていない。学校では朝の活動などで読書をする習慣が身につけているが、家庭では読書をする習慣が身につけているとは言い難い。 ②課題の提出はほぼできているが、自主学習の効果的な進め方ができている児童は少ない。	・児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れ、授業のめあてを明確にするとともに、授業内でのふりかえりを大切にする。 ・来年度も毎週金曜を「自主学習の日」、毎月最終金曜を「家庭読書の日」とし、家庭でも進んで学習や読書に取り組むことができるようにする。 ・家庭学習の充実を図るために、家庭での時間の過ごし方を指導するとともに、家庭での自主学習や読書の奨励をする。 ・効果的な自主学習ができるよう、復習だけでなく、調べ学習や新聞を題材にする等、幅広く主体的に取り組めるようにする。

令和3年度 学力向上ロードマップ

